



令和6年8月31日（土）、十和田市一本木沢ビオトープにて今年度最後となる親自然体験「水の中をのぞいてみたら」が開催されました。北里大学獣医学部の柿野准教授の調査の一環としてビオトープに設置した地引網を参加者全員で引き揚げ、かかっていた生き物を採取して観察します。

今年は天候に恵まれず、雨の様子を見ながらの実施となりました。さらに1回目の設置と回収では、今年の猛暑で大発生した水草に網が絡まり口が上手く開かず、ほとんど何も入っていない状態でした。



【1回目の地引網】



2回目の設置では水草が少ない場所を狙って設置し、回収することでジュズカケハゼやアメリカザリガニなどの生き物が採取できました。残念ながらこの段階でさらに雨脚が強くなり始めたので観察会は中止となり、屋内での学習会に切り替えとなりました。



【2回目の地引網と生き物観察】



十和田市東コミュニティセンターに戻ってからは、地引網にかかっていた生き物を中心としたビオトープに生息する魚類や貝類について学びました。また生き物の調査は天候との勝負であり、日程の都合でどうしてもその日にしか調査できない時は、雨の中でも調査をしなければならないなど貴重な体験談も聞くことができました。



【観察会の様子】



【集合写真】

今年の本木沢ビオトープ親自然体験は全3回中2回が雨天という結果になってしまいましたが、いずれも興味深い話を聞くことができる貴重な体験となったと思います。

来年度もこの親自然体験は実施予定ですので、十和田市にお住まいの方は参加してみたいかがでしょうか。

関連事業：県営一本木沢地区農村振興総合整備事業（H9～16）